

■ご挨拶

理事就任挨拶

日本風力発電協会 理事 **延命正太郎**
株式会社 東洋設計 常務取締役



はじめに

このたび、日本風力発電協会理事を拝命いたしました東洋設計の延命正太郎（えんめいしょうたろう）でございます。我が国における風力発電事業の現状は、国による固定買い取り制度による導入量の拡大意欲の一方で環境アセスの法制化等の阻害要因があり、太陽光発電事業のように急速な導入拡大には至っていないのが現状です。われわれ風力発電に関わるものにとってどのようにすれば導入量の拡大を維持出来るかが重要なテーマであることは間違いありません。そのため、日本風力発電協会の発展に貢献できるよう、会員の皆様のお力添えを頂きながら責務を果たしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

会社および自己紹介

弊社は昭和 45 年に石川県金沢市で創立された総合建設コンサルタント会社です。地元では「水の東洋」と言われ発足当初は水道・水力が中心でしたが、その後、道路・都市計画等にも力を入れ総合建設コンサルタント会社となりました。風力発電との係わりは、平成 3 年に旧松任市（現在の白山市）に我が国で最初の逆潮流ありの風力発電機建設に伴う可能性調査・設計に携わったのがきっかけで私自身もこの時から参加しています。現在では、連系当たり前ですが、我が国において平成 4 年 4 月 1 日以前は系統への連系はできませんでした。ある意味で、我が国における再生可能エネルギーの出発点であるかもしれません。

弊社にとっては元々中小水力発電の設計を行っていた事と逆潮流ありが認められた時期にたまたま風力発電に係わりを持ったのは、ある意味でめぐりあわせであると感じます。

また、現在も我が国における風力発電の阻害要因の一つである雷被害対策の出発点も旧松任市の風車からです。残念ながらこの風車はすでに撤去されてしまいました。その原因は日本海側特有の冬季に発生する雷が原因です。ブレード焼損を含め何回も被害を受けそのたびに

修理を実施してきましたが、ブレード入手ができなくなってしまい撤去に至りました。当時の可能性調査においても雷被害や着氷・着雪等についても調査していましたが、日本海側特有の冬季雷のエネルギーが 600C（クーロン）以上ある場合がある事を想定できなかったのも事実です。太平洋側に住んでいらっしゃる方には想像できないでしょうが日本海側に住んでいる我々にとっては冬に雷は生活の一部になっています。11 月に入って、この雷が鳴るとこれから冬が来ると実感させられます。金沢ではこの雷を「ぶりおこし」とも言います。弊社は NEDO（新エネルギー・産業総合技術開発機構）より平成 17 年度～19 年度の日本型ガイドライン査定事業・平成 20 年度～24 年度次世代風力発電技術研究事業（落雷保護対策）を受託しました。これも北陸に本社がある弊社としては少なからぬ縁を感じます。

そもそも再生可能エネルギーは地産地消が原点であると思います。地元還元を最優先とした事業展開が必要不可欠であると確信しております。もともと北陸に本社がある弊社においては当たり前のことではありますが、地元であればどんなことがあっても逃げられません。このため、顧客に対して最後まで責任を持って対応する必要があります。これができなければ地域では生き残っていきません。このことは風力発電関連業務の弊社実績を見ていただければ明らかです。

終わりに

弊社が持っている財産は継続だと私は信じています。平成 3 年から現在まで 20 年以上風力発電に携わってまいりました。多くの失敗も経験してきましたし、たくさんの方々との縁も構築してまいりました。この財産を有効に利用し、JWPA と会員の皆様のためにも寄与できればと考えております。このことを自分たちもしっかり認識し、愚直に実践していきたいと思っております。なにとぞご指導のほどよろしくお願いいたします。